

白鷺城へようこそ

姫路城は、そのそびえ立つ天守閣と白く輝く漆喰の壁から、白鷺城として知られ、日本で最も訪問者数の多い城である。天守閣は 1601 年に建造され、日本で現存するもっとも古い天守閣のひとつである。

姫路城は包囲、爆撃、火災に遭ったことがないため、その建造物のほとんどが日本国内の他のどの城よりも今日まで多く現存している。この国宝を未来の訪問者のために保存することを目的に、1900 年代初期から天守閣、門、櫓の定期的な修復工事が行われてきた。

姫路城は曲輪と呼ばれる要塞にそれぞれ囲まれた複数の城郭で構成されている。姫路城で唯一、石で造られているのは石垣部分であり、城の建造物のほとんどは木、土、漆喰でできている。この城には、日本の伝統的な建築と職人技の素晴らしい実例がたくさん詰まっている。

姫路城の建造物のほとんどは、表面上は戦争のために設計された。試しに、城の壁に空いた約 1,000 個の銃や矢の跡を数えてみてほしい。だが、この城が攻撃を受けることはなかった。その代わりに、姫路城は主にその城主による統治および生活の拠点として機能していた。この大名の豪華な住居は明治時代（1868-1912）に壊されてしまい、住居と仕事に使われていた空間のほとんどは失われてしまった。しかし、封建時代の日本の支配階級の生活を垣間見ることができる場所も残っている。たとえば、西の丸内部の壁面の羽目板のデザインは、ここがかつて侍女たちの居住空間であったことを示している。